

諏訪小だより

令和6年9月2日
9月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

改めて「学校で安心して過ごせるように」 校長 齋藤幸之介

例年より少し長い夏休みが終わりました。いかがお過ごしだったでしょうか。「暑い」を通り越し、「猛暑」「酷暑」の日々でした。一歩外に出れば、めまいを感じることもありました。しかし、時々出会う子供たちは汗をかきながら活発に動く姿に感激をし、そして、何よりも元気であることに安心しました。

本来ならば、「子供たちは元気に登校してきました」と表現するところですが、これをしたためている時点では、9月2日の教育活動ができるかどうか不明で、このことも含め、自然災害や感染症への一層適切な対応が求められます。

およそ1年前、本校は2回の学校閉鎖を実施しなければなりません。今後はこれを何とか阻止しなければならない、と思っています。このことを含め、今回は子供たちが「安全に登校し」「安心して過ごせるように」するために、皆様には口幅ったいことにもなりますが、お伝えをしたいと思います。どうぞお許しください。

自然を読み、情報を得ながら

今回の台風10号は、その勢力の大きさもさることながら、進度がとてもゆっくりでした。予報も絶えず変わり、教育活動への影響も読みづらいと言わざるを得ませんでした。お恥ずかしいですが、今回は「寒冷渦」なる現象が台風の進路に大きな影響を与えることも分かりました。また、8月上旬に発生した台風5号は、東北地方を太平洋側から日本海側に進みました。これも比較的珍しいとも言われています。「線状降水帯」も頻繁に用いられる用語となり、その影響に一層深く注意を払う必要が出てまいりました。

これも8月上旬には宮崎県日向灘で震度6弱の地震が発生しました。その後8月9日には多摩市で震度3を計測した地震がありました。今後不安を感じた方もいらっしゃるのではないかと思います。

このように、自然災害は時に今まで以上の猛威を振ります。これに適切に対応するために、私共はまず適切な情報を収集して対応の仕方を判断することが求められます。同時

に、平素より準備しておくことが大切です。防災グッズもその一つです。また、行動の仕方も身に付けておく必要があります。本校の子供たちは、避難訓練によって地震発生の場合には机の下に潜り、また防災頭巾を被ることを自ら行うことができます。備えることの大切さを改めて感じているところです。

過去を記憶に留めながら

冒頭に述べましたが、昨年度は2回の学校閉鎖を行いました。感染症が広がる早さや感染力に対応することは難しい、と改めて思いました。新型コロナウイルス感染症の法令上の位置付けが変わり、かつては毎日のように感染者数が発表されていましたが、今は感染状況を推し量る数値を探すことも難しい場合があります。現在は少し収まりつつあるようですが、7月にはかなりの感染者がいる、との報告もありました（東京都新型コロナウイルス感染症情報第21号（令和6年8月23日発行、東京都保健医療局）。また、気温の高さも手伝って食中毒も発生し、様々な要因があったことも報じられました。

これらから身を守るためには、月並みですが「手を洗う」といった一見単純なことを確実にかつ丁寧に行うことが求められましょう。

「危険を予測し回避する能力」

先日、本校では安全教育の研修会を行いました。そこで「安全教育で身に付ける力」の一つに「危険を予測し回避する能力」が確認されました。自然災害、感染症対策と対応するケースは多々ありますが、いずれも「どのような危険が潜んでいるのか」を明らかにし、「危険を避けるために何ができるか」を判断することが重要であります。これからは、様々な状況を想定し、危険に対応すべく諸活動を行ってまいります。御家庭でも様々な状況を想定し、例えば「手を洗う」ことを徹底して指導していただいたり、いざというときにどのように避難するのかを話し合う場を設けていただければと思います。

参考

安全教育プログラム第16集（令和6年、東京都教育委員会）

